

研究テーマ：教科書付属CDを活用して音読の力を向上させるための指導の工夫

所属 高知追手前高等学校

氏名 前田 小百合

RG SH4

1 研究の背景

今年度の1年生は、新教育課程での最初の高校1年生であり、またセンター試験でもリスニングテストが導入される最初の学年でもある。私自身3年ぶりに1年生の授業を担当させていただくなかで、新課程の特色をいかし、4技能の統合を意識した授業内容に関心を抱いた。また年度を通して、和訳先渡し方式による授業展開をおこなうことも決定した。その上で、英語力を総合的にひきのばすことを目的とした場合、音読活動を彼らの家庭学習の中心におくのが良いのではないかと考えた。なお今年度1年生は、生徒全員が年度当初に英語教科書Geniusの付属CDを購入しているため、リサーチクエストは以下のものとし、対象生徒は人文語学コースの1年1ホームに決定した。

2 リサーチクエスト

英語の教科書付属CDによる、家庭での音読練習を活用して、生徒の音読能力を向上させるためには、どのようにすればよいか。

3 予備調査

予備調査1 授業観察の結果

5月から始まったリーディング授業中の音読活動は、1年生らしく活発で、生徒はよく声を出す。しかし、集中力の点では物足りなさを感じていた。各レッスン終了時に行う音読テストの際、教科書欄外にとりあげられている新出単語の発音にとまどったり、間違えたりする生徒が多かったからである。教科書付属CDには本文の読みのみが収録されているので、新出語彙の発音のみをとりあげた収録はなされていない。そのため、授業中に意識を集中して単語を発音練習することや、家庭での復習の際、反復練習することが必要なのだが、そこまでCDを活用している生徒は少ないことが以下のデータ、アンケート等で明らかになった。

5月30日(金)実施のCD利用時間アンケートの結果： 1日あたり使用時間=5.7分 1レッスンあたり合計22.5分

予備調査2 英語力を示すデータおよびアンケートの結果

人文語学コースの生徒らしく英語を好むものが多く、7月に行ったALTのメアリー先生、JTE(前田)とのインタビューテストでもコミュニケーションへの積極的な態度が見られた。しかし抜き打ち語彙テストでのGenius既習語彙定着率は低い。

インタビューテスト(15点満点)： クラス平均13.5点

採点基準 = Voice、Eye-contact、English各5点 合計15点満点

7月30日実施 抜き打ち語彙テスト： 正答率 クラス平均52%

Genius各レッスン終了時の音読テスト(A=3点、B=2点、C=1点の3段階評価)のクラス平均点

L1=2.6点 L2=2.6点 L3=2.6点 L4=2.6点 L5=2.5点

英語 前期中間試験(7/2実施)直前6/26(木)~6/29(日)4日間の学習時間アンケートの結果

1日あたりの平均音読時間=29.8分 (その中でCD使用時間=18.8分)

CDの使い方

- | | | |
|---------------------------|----------------|--------------|
| ・聞きながら音読 | ・シャドウイング | ・わからない発音を確認 |
| ・自分の発音をテープに録音してCDと客観的に比べる | ・書き取りをする | ・同時に発音する |
| ・流しっぱなしで聞く | ・CDを途中で止めて発音する | ・聞いて日本語を理解する |
| ・あとについて読む | | など |

4 仮説の設定

仮説1 「ぶつ切りテスト」(本文テープを再生し、停止した箇所の次にくべき英単語を解答する小テスト)を行うと、生徒は家庭でCDを長時間聞いて学習するようになる。

仮説2 Genius各Lesson終了時の音読テストだけでなく、平常の授業中に生徒一人が音読し、他の生徒がそれを聞く機会を増やすと、生徒は家庭でCDを長時間聞いて学習するようになる。

5 計画の実践および結果

8月上旬の英語教員指導力向上研修の際、アクション・リサーチ分科会(英語音読グループ)の皆さんとそれまでの実践の報告や検討を重ねるうちに、音読能力とは、「与えられたものを読みこなす力、すなわち英語を音として出すことができる。英文の意味がわかる。」

ということの意味するのではないだろうか、という合意に達した。そして、9月以降の対策として、教科書既習事項、前日の重要表現を用いたライティング、スピーキング活動を取り入れるなど、授業全体のなかで生徒の音読学習がいかされるようにする。授業中に即興性をはかる活動やペアワークを設ける、以上2点が効果的ではないかと考えた。

ぶつぎりテストの結果

7月末より始めたぶつぎりテスト(5点満点)のクラス平均点は、L7=2.86点 L9=2.2点 L11=2.7点となった。

9月音読テストの結果

9月に Genius Lesson 9 Ant Communication の音読テストを行った。1年英語科での話し合いにより7月までの音読テストより難度を上げ、評価基準は : 25秒以内に読み終わることができる、 : 個々の語の発音、アクセントが正しく読める、 : ポーズの位置が自然で、文脈を理解した読み方ができる、 : クラス全体とのコミュニケーションを成立させるのに十分な声量がある、の4項目で

結果は、A(3点)=18人、B(2点)=15人、C(1点)=7人 クラス平均点 = 2.27点となった。点数は以前より下がったが、素早く正確に読もうとする姿勢がみられるようになった。

10月より始めたラストセンテンス・ディクテーションテスト

10月になると、Geniusは2巡目の学習に入り、授業冒頭での小テストの一つとして、ぶつぎりテストに代わりラストセンテンス・ディクテーションテストを導入した。内容は、あるセクションのテープを生徒に聞かせながら、突然テープ再生を止め、その直前に聞いた最後の文章を書き取らせるものである。たとえば Lesson 3 George Lucas Section 3 の場合、ア: He felt that young people no longer had a fantasy life. イ: Finally, a major company agreed to produce the film Lucas wanted to make.の2文を出題した。このテストのため、前日にCDを聞いた時間のクラス平均時間は5.2分だった。ディクテーションを苦手とする生徒が多く、文章全体を正確にディクテーションできた生徒は、41名中、ア: 15人、イ: 10人だった。

11月におこなった即興的要約リテリング活動

10月からの Genius 2 巡目学習の目玉は、要約ワークシートの取り組みである。英文要約をライティングした後、ペアで口頭発表を行い、パートナーの発音、アイコンタクト、声の大きさについて評価し、シートに記入する。11月末に Lesson 6 Easy Japanese の要約活動を行う際に、本文の英語を目で見ながら、主語を置き換えたり、語句を他の易しい表現に言い換えて、即興的に自分の言葉で表現する活動をおこなった。これは音読活動そのものではないが、音読練習の結果として生じられる、「自分の思いを言葉で伝える力」を試すものだと考えた。今回、生徒の多くは「むずかしい活動だ」と感想を述べていたが、相互評価シートには「積極的に言葉を言い換えようとしていた。」「むずかしいけど頑張っていた。」などの記入もあった。

6 結果の検証

- 1) オーラル・コミュニケーション の後期中間考査(12月2日実施)では、Genius のディクテーションテストを定期考査で初めて行った(配点は30点)。範囲は文系クラスが Lesson 1~6、理系クラスが Lesson 1~4 である。11/22(土)~11/30(日)に教科書CDを聞いたクラス平均時間はひとり1日あたり11.04分だった。
- 2) A L T , J T E との12月スピーキングテスト(Genius lesson9 の音読および内容理解に関する質問に回答)のクラス平均点の結果は、Delivery&Efficiency=4.26点/5点満点 Loudness=4.36点/5点満点 Clarity=4.17点/5点満点 12.87点/15点満点 となった。7月のスピーキングテストとは形式が異なったため、点数での比較はむずかしいが、7月と比較した場合、以前よりもリラックスし自信をもって答える生徒が多かった。また即興的要約リテリング活動の成果が、自分の言葉で回答しようとする姿勢も見られた。

3) 12月アンケートの結果

4月当初と比べて とても良くなった 少し良くなった あまり変わらない 少し悪い とても悪い

| | | | | | |
|-----------------|---------|----------|----------|--------|----|
| 単語の発音 | | 21人(58%) | 14人(38%) | 1人(2%) | 0人 |
| リズム・イントネーション | 3人(8%) | 16人(44%) | 15人(41%) | 2人(5%) | 0人 |
| 流暢さ(一定の時間内に読める) | 7人(19%) | 16人(44%) | 12人(32%) | 1人(2%) | 0人 |
| 区切り(スラッシュ) | 4人(11%) | 18人(50%) | 14人(38%) | 0人 | 0人 |
| 音量(声の大きさ) | 8人(22%) | 15人(41%) | 12人(33%) | 1人(2%) | 0人 |

7 成果と今後の課題

12月アンケートの5段階評価および記述式回答にも現れていたが、生徒達は、リズム・イントネーションの改善、以前よりも速いスピードでの音読、スラッシュの位置理解に手応えを感じている。12月段階でも授業中はよく声を出して音読している。その一方で個々の単語の発音は正確さの点でいまだ不十分だが、これは付属CDに新出単語の発音が含まれていないことも要因の一つとして考えられる。CDの使いづら点として、その点を指摘する生徒が、速い、遅い2種類の速度の音読収録を望む生徒と並んで、多かったからである。英語を読んだり話したりする力に

については、9月までのOCでのスピーチ活動(12時間配当)や10月からのディベート活動(14時間配当)によって伸びた点も大いに考えられる。いずれにせよ、今後の課題として、CD学習時間を増やすためには、「CDを用いた家庭でのシャドウイング活動を義務づけ、結果をシャドウイングテストで測る」といった家庭学習と授業、テストを直結させるタスクを与える必要がある。何よりもリサーチの最初からテープ録音、秒数測定などの精密な音読テストと行ったうえで、音読能力向上のための系統だったタスクを与えるべきであったことを深く反省している。